個別不適切ケアを考える

ちゅーっりぷ苑
グループホーム・つばきA

テーマとして取り上げた理由

- 入居者全員に共通する不適切ケアのほかに、入居者それぞれに対して異なる不適切ケアがあるのではないかと思ったから。
- 他の職員の介護に疑問を持つ事があり、皆で考える機会を持ちたいと思ったから。

活動内容

１，アンケートを取る。（自分・他職員の不適切ケアについて）
２，アンケートを集計し、内容について話し合う。
３，不適切だと思われるケアについて、改善策を話し合う。
４，改善策を実行する。

アンケート結果

「入居者それぞれに対して、不適切だと考えられる自分や他職員のケアをあげてください。」

例：A様の場合

①本人の訴え（「子供がここで寝ている」）に対して否定して答える。

＝たまにしてしまっていた職員　３名　（自己評価）

⇒否定されることで怒ってしまわれることが多かった。

例：A様の場合

②机やベッドをコツコツと叩いて何かしら訴えていることを後回しにする。

＝たまにしてしまっていた職員４名　（自己評価）

⇒職員が訴えを聞いてくれるまで、納得できるまで続いていた。

例：B様の場合

①同じ訴えに対し、少しずつ語尾がきつく疲れた感じで返答している。

　＝職員全員がしていない　と自己評価。

⇒同じ訴えを間隔開けずに何度も繰り返していた

例：B様の場合

②認知症であることを理由に妻が亡くなったことを伝えない。

＝職員全員がいつもそうしていた。

⇒頻繁に職員に聞いてこられていた。

改善策の検討

例：A様　①

・なぜ子供のことを言うのか　⇒　孫の世話をしていたから心配。

・望ましい対応は　⇒　話をよく聞き、本人に話を合わせ安心できるような返答をする。

「ちゃんと寝ったろっか？」⇒　「よく寝てますよ」

「どっか行っちゃった」　⇒　「お母さんと一緒にいるから大丈夫ですよ」

例：A様　②

・なぜ机やベッドをたたくのか？　＝　自分に気付いてほしい

・望ましい対応は　⇒　できるだけ早く対応する。
他の対応中なら、その旨説明して少し待ってもらう。訴えをよく聞き対応する。

例：B様　①

・なぜ同じ訴えを繰り返すのか？　＝　気になっているから訴えるが
すぐに忘れてしまう。

・望ましい対応は　⇒　落ち着いて同じトーンで話す。丁寧に答える。
他の職員と交互で対応する。
B様の話をよく聞く。

例：Ｂ様　②

・なぜ妻が亡くなったことを伝えないのか　＝　ご家族からの依頼

・望ましい対応は　⇒　本当のことを伝えずに嘘を言わなければならないことは心苦しいが、ご家族は亡くなったことを知り、悲しむのはかわいそうだとの考えがあり、本人は会えなくても、事実を知らないでいる方がいいとの考え。嘘をつくのは不適切と思うが、この場合は不適切な対応と捉えなくてよいのでは。

まとめ

入居者それぞれに個別のケアが必要なのと同じように

個別の不適切だと思われる対応に気づき、しないことが重要。

また、職員間で不適切ケアを指摘しあえることで、より良いケアを提供できる環境になるのだと思う。

ご清聴
ありがとうございました